

# 自動運転田植機

## ■ 概要

GPSや完成計測装置等により、直進・旋回まで自動で走行し、一定の間隔で植付けができる。自動走行中に苗を補給することもできる。機器によっては、地点を登録することで斜行した圃場であっても、微少な誤差で田植ができる。



機器上部に取り付けられたGPS受信機により、正確な位置情報を取得。

## ■ 期待できる効果

- ・ 運転者の労力軽減、作業人数削減。
- ・ 不慣れな従業員等でも作業できる。
- ・ 苗の補給時間が削減でき、作業時間短縮が可能に。

## ■ 留意点

- ・ 普及が進んでいるが、未だに相場は高額である。
- ・ 機器によっては、ある程度自身で操作しなければならない。
- ・ 中山間地や障害物がある圃場など、利用が困難な圃場や効率化に繋がらない圃場がある。
- ・ 今後、GPSの利用料が発生する可能性がある。

## 使用者の声

さくら市 岡田 伸幸 さん

主食用米・酒米 22ha (受託田植 7ha)、ソバ 4ha

〔導入機器〕 **8条田植機** (株式会社クボタ)

岡田さんは以前使用していた田植機が故障し、更新する際に労力軽減を目的として導入を決めた。

岡田さんが導入した同機はGPSによる位置情報の取得に加えて、側条施肥機能・箱施肥用剤散布機もついており、労力削減に一役買っている。

「GPS機能による直進で、圃場の真ん中で苗補給ができて大きな労力軽減になった」と岡田さんは実感している。

また、従業員など誰でも直進の田植えができ、不慣れな者でも均等に田植えができることで、7月の農薬散布（ブームスプレーヤーなど）も効率的にできるようになる。

また、機器の導入にあたって、岡田さんは農業共済の「農機具損害共済」に加入。使用中の事故をはじめ、格納中の火災にも備えている。



直進中に田植機後部の苗の残量を確認し、補給することもできる。